こころへ豊高図書館 みち 第212号

2016.9.28

森垣琴音
小山実紗 大森汐菊
田尻瑞生
谷岡芳樹

◎今年の十五夜は少しもやがかかっていましたね。

読書の秋

豊高祭も終わり、涼しく過ごしやすい日が増えてきました。日中は過ごしやすいですが夜は冷え込むので体調管理をしっかりとして風邪などで体調を崩さないようにしましょう！

さて、秋といえば読書です！秋の夜長のお供を図書室で探してみませんか？きっと素敵な出会いがありますよ。

長月

夜がだんだん長くなる頃「夜長月（よながつき）」の略が有力。雨が多く降るため「長雨月（ながめつき）」に由来するという説もあり。

老人の日（9月15日）

老人週間（9/15～9/21）とは、日本は高齢者社会になり平均寿命が延びました。誰もが健康で安心して、生きがいを持った生活ができる長寿社会を築くために地域で100円カフェを実施したり、楽しみながら体を動かしたりしておられます。（各町内会館）

新着図書 2冊

転換期を生きるきみたちへ（内田樹）

中高生に伝えておきたい大切なこと。「人間は色々だ」ということを言っている。職業の肩書きで人間を評価する考え方を"受け入れる必要はないぞ"と…。（足立先生よりおススメの本です）

命は誰のもの（香川知晶）

豊高祭で2-1、2-4が行った劇の小説があります。興味のある方はぜひどうぞ!!

重陽の節句（9月9日）

中国で縁起が良いとされてきた陽数（奇数）のうち最大数の9が重なることから「重陽」と呼ばれた。日本には奈良時代に伝わった。

菊酒

寿命を延ばすという言い伝えがある菊酒は、不老長寿と無病息災を願い、9月9日に飲まれるようになった。

秋分の日（彼岸の中日）

- 昼夜の長さがほぼ等しくなる日。
- この世とあの世が最も近づくとされる。
- 「先祖を敬い亡くなった人を『しのぶ日』として祝日に制定された。
- 墓参りをし、仏壇におはぎを供えたりします。

（2-4H）

（2-1H）

図書の紹介（図書委員より）

夜のピクニック（恩田陸）

全校生徒が24時間かけて80kmを歩く高校の一大イベント「歩行祭」。三年生の甲田貴子はこの特別な日に、自分の中で賭けをした。それは、クラスメイトの西脇融に声をかけるということ。当日、気ばかり焦り何もできないままゴールは迫る…。ノスタルジーの魔術師が贈る、永久不変の青春小説。

新世界より（貴志祐介）

ここは千年後の世界。人々は呪力という神の力を手に入れ、平穏に暮らしていた。どこかのどかで平和な世界。しかし、あることがきっかけで主人公たちは人類の血に塗られた歴史、ゆがんだこの世界に気づいていく…。上、中、下の大作、たっぷり読みたい方にオススメ。

聲の形（コミック）（大今良時）

耳の聞こえない少女とその周りの人々のお話。9月17日に映画が上映されました。見てきた人、これから見に行く人、見に行けない人、様々いると思います。原作であるコミックが全巻、図書室にあります。ぜひ足を運んでみて下さい。

わかるけどそうなんだなあー

生きる力

パラリンピック

八月にオリンピック大会を終えもう一つのオリンピック大会も幕を閉じました。その中のゴールボールの競技では目に障害があっても研ぎ澄まされた耳とカン、そして心で勝負に挑んでいました。

インタビューにあったある選手の「視覚障害は不便だが不幸ではない。後悔したくないから今、頑張る」という言葉が衝撃的でした。

選手たちは、人それぞれ障害を抱えています。それを受け入れ、自分に出来ることを精一杯頑張っている姿は、私たちにいろいろなことを考えさせたり、教えてくれたりしています。

同様に、私たちもまた誰しも人の目に触れるか触れないかの違いはあれ、何らかの問題をかかえて生きています。

"それでも、苦しいのは自分だけではない"と選手が教えてくれているように思えます。各々が自分に合った苦しみの中で生きています。頑張りましょう。